

行雲流水

No.196 令和4年4月14日発行

本校のサクラ

校長 寒河江 正人

「**本校の桜**」が咲いた。今、まさに**満開！！**

職員室の南側に立つ「**2本のサクラ**」。
立ち止まって、下から木々を見上げる。
「**大きくなったなあ。**」と心の中で**声**をかけた。

20数年前に勤務していた頃は、まだもっともっと**若い木**であった。
生徒たちといっしょに「**満開の桜**」をバックに記念写真をとったこともある。

きっと、本校の生徒たちの「**春の成長した姿**」を見守ってきてくれたに違いない。
本校29年の歴史といっしょに歩いてきてくれた「**2本のサクラ**」。
ありがとう。

本校は、生徒数の増加に伴い、今年度の晩秋から**新校舎の増築工事**が始まる。
東根市教育委員会の説明では、新校舎の建設にあわせて「**2本のサクラ**」は、**伐採**される。

もしかしたら、この春の姿が「**2本のサクラ**」の見納めなのかもしれない。
生徒諸君を見守ってきてくれた「**2本のサクラ**」の姿を目に焼き付けておいて欲しい。

平安時代の歌人、ありわらのなかりひら**在原業平**は

「世の中に たえて桜のなかりせば 春の心は のどけからまし」と詠んだ。

（本来、春はのどかな季節であるのに、人は桜が咲くのを待ち、散るのが気になり、落ち着かない。
まるで、桜があるために、「人々の心」が穏やかでなくなるようなそういう心持ちを述べて、
「人々の心」を騒ぎ立てる力のある「桜の素晴らしさ」を伝えようとした歌であるという。）

一気に鮮やかに咲き誇り、美しく散りゆく桜。
花の命は、短い。

この「**はかなさ**」がゆえに、昔も、今も、**私たちの心**を魅了して離さない。